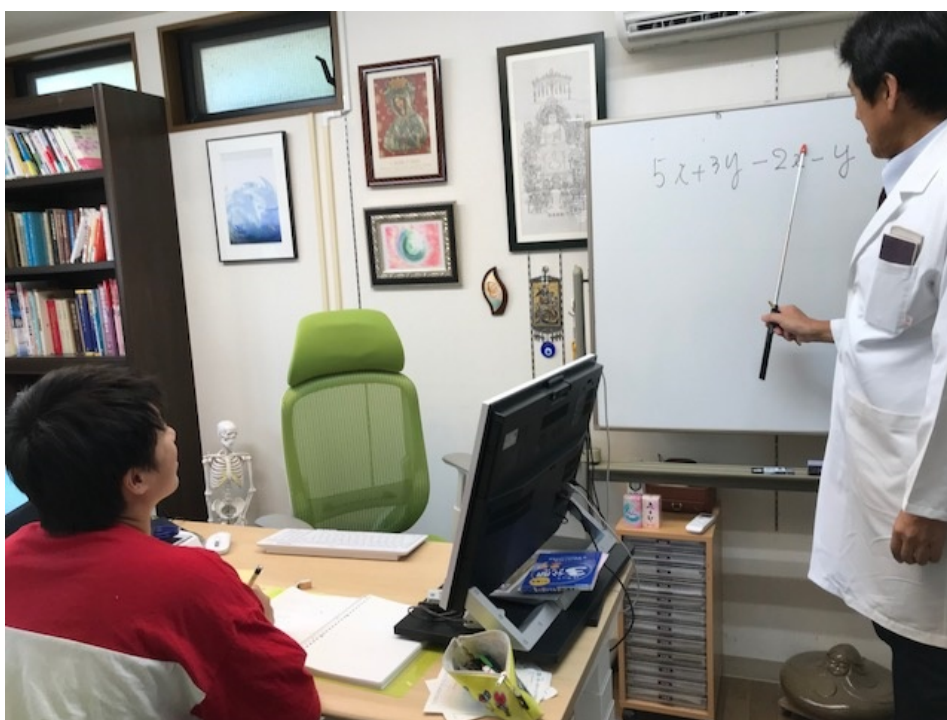


# 知識よりも 「学ぶ楽しさ」を教える



今、一人の中学3年生の勉強をみてあげています。ほぼ毎日。  
ただ「1日1時間」と決めてやっています。

10年ほど前から、成績がかなり悪い(いわゆるオチコボレ)の子どもたちの  
高校受験をサポートして来ましたが、昔は最低2時間やっていました。  
小学校の算数から教えないと、とても間に合わないからです・・・(笑)

しかし、長時間やっても期待する成果が得られないこと。そして教えることに  
頑張れば頑張るほど、「理解させられない」というイライラと虚しさを感じて  
生徒よりも、教える側の私がやる気をなくしたりしました。知識を習得させる  
ことばかりに躍起になっていたからです。そうではなく  
「学ぶ楽しさ」を習得させる。それが大切だと気づきました。

「なんでできないの!」「塾のお金、いくらかかっていると思っているの!」  
今夏の猛暑以上のイライラ熱で、炎上中の親御さんも多いかと・・・(笑)

しかし親や教える側が、どれだけ熱くなっても期待する結果は得られません。  
「勉強しないならそれでもいいさ。でもろくな仕事に就けないぞ!」  
そんな脅迫じみた正論を子どもに振りかざしても、何も変わりません。

ではどうすればいいのか?

塾に通わせて、参考書・問題集を買い与えて、家庭教師を付けて・・・  
そうした正攻法を捨て去り、「**内発的動機付け**」に頑張るのです!!

内発的動機付けとは、報酬を得るためや何かの目的のためにやっているのではなく  
「**自分がしたいからする!**」モードでやっている状態です。  
自分の内面から起こった興味・関心・意欲に動機付けられた状態のことです。

勉強ができるようになれば、一流大学に入って高収入が得られる。  
100点を取ったら欲しかった物を買ってもらえる。  
成績が悪かったら親から怒鳴られて叩かれる、それが嫌だから勉強する。  
それらを反対に「**外発的動機付け**」と呼びます。

教える側に問われるものは、いかに相手の「**内発的動機**」を発動させるか?  
「**問題を解くことが楽しい、勉強は面白いからやっている**」。そこに導く。

イソップ物語に「3人のレンガ職人」の話があります。

旅人が3人のレンガ職人と遭遇した。「ここで何をしている?」尋ねてみた。

1人目の男は

「レンガを運んでいるに決まっているだろ。腰は痛いし、手もボロボロだ」

2人目の男は

「重労働だけど、家族を養っていくために有り難く働かせてもらっているよ」

3人目の男は

「大聖堂を造っているんだ! 完成したら多くの人都在这里集まって祝福を受け  
悲しみから救われるんだ。素晴らしいことだろ?」

1人目の男は、働かないと食べていけない、仕方なしに仕事をしている。

2人目の男は、家族を養うために頑張って仕事をしている。

3人目の男は、仕事に誇りを持ってワクワクしてやっている。

同じ仕事をしていても「物事の捉え方一つ」で仕事に携わる姿勢は違ってくる  
というお話です。

3人目のレンガ職人のような思い方考え方で仕事ができたら、仕事の能率も上がって毎日が充実して楽しいでしょうね。

仕事の疲れは感じるでしょうが、その体の疲れをワクワクの心が凌駕して仕事だけではなく、健康も増進できるでしょう。

「勉強されている」「受験があるから仕方なくやっている」

それで成績が上がっても、志望校に合格できても、その結果に親が満足しても当の子どもは心から喜べません。なぜなら「仕方なくやって来た」ことだから。せっかく合格・進学できても、学校を中退したりする一つの理由です。

つまり、勉強も仕事も「やらされ感」でやっているのは、充実感・達成感を持って生きることは難しいということです。

どんな学歴であれ、どんな仕事であれ、1日の終わりに「あ～～疲れたけれどよく頑張った1日だった～」と満足できる生き方。それが幸せな人生です。

では、やる気のない子どもに対してどうすれば内発的動機付けができるか？

どうすれば3人目のレンガ職人のような考え方を育めるのか？

まずは

**親・教える側が内発的動機で物事に携わる習慣を持つことからです。**

他人にどう思われようが、周りがどういう価値観だろうが、何と言われようが「自分がやりたいから、自分はやる！ やり続ける！」

“主体的なやる気”に基づく行動。それが内発的動機付けされた行動です。

しかし、多くの大人たちはこう考えます。

「したいことだけやって、したくないことはしない。それはワガママでは？」

「仕事なんて、誰だって食べていくために仕方なくやっているんだ！」

「そんなことやってたら、変な人だと思われる」

他人の評価、世間体、常識、体裁・・・そんな外発的動機付けで生きている大人が子どもに内発的動機付けすることはできません。むしろ、子どもの中に芽生えた内発的動機の芽を摘み取ってしまいかねない。

「問題を解くことが楽しいと感じさせ、自分から勉強するように、いかに導くか？」

目先の成績よりも、生徒の気分づくりを一番に考えて、まずは教える側の私が明るく楽しくポジティブに、夢を持って教えている2018盛夏です。

## 健康長寿の決め手も「内発的動機付け」次第

太田東西薬局を長くご利用くださっているお客様は、もちろん内発的動機に基づくご利用ですよ！

つまり、太田東西の漢方を「仕方なく飲んでいる」「アドバイスを聞きたくないのに

イヤイヤ聞かされている」 じゃないですよね・・・？(笑)

「私は太田東西の漢方を続けて飲みたい！ なぜなら不調から回復して健康を実感できたから！ そして何よりも自分の考え方生き方が変わって、明るく楽しく前向きに生きることができるようになったから！」 ですよ？

そうした確固たる内発的動機付けがあるから、周りから「高価な漢方、どうして続けて飲んでいるの？」「だまされているんじゃないの？」「まだ具合悪いの？」と否定的に見られても、ブレないわけですよ！ \ (^o^ ) /

とあるお客様がおっしゃいました。

「ここは薬局ではなく、学校ですね。 先生は先生 ( teacher ) ですよ！ 」  
なるほど、私が教師であり、お客様は生徒というわけです。

「太田東西薬局で学ぶことが、教わることが、自分の人生にとって有意義だ！ 」  
「太田東西夫婦とお話するのが、何より楽しい！ おもしろい！ 元気になれる！ 」  
そうした体験がお客様の内発的動機を大きくしていると自負しています。

治療も、勉強も、仕事も、同じです。

イヤイヤやっても、他人任せにしても、身にならないのです。

「どうか病気を治してください」「どうか子どもを合格させてください」  
自分や家族の問題を他人任せにして、それで完治・合格の結果が得られたとしても自分の内面から沸き起こって来る “ やる気・勇気・希望 ” は育ちません。

語弊はありますが、オチコボレの生徒が勉強の楽しさを知らないように、病気がなかなか治らない人は「病気から学ぶ楽しさ」を知らないのです。

病気というのは、本人に何かを気づかせるために起きる貴重な出来事です。

「この病気は、私を立ち止まらせ、私に何かを教えようとしてくれているんだ」  
病気を忌み嫌わずに、そうした内発的動機付けを太田東西薬局で持てた時から漢方も抜群に効いて、病気は速やかに治っていく ( 役割を終える ) のです。